



ぬくもり

第3号

住んでみたい四絡
住んでよかった四絡
～認めあい支えあう
やさしさあふれるまちづくり～

◆ 発行者 四絡地区同和教育研究指定事業推進委員会（四絡コミュニティセンター内）



「認めあい支えあう やさしさあふれるまちづくり」をめざして

出雲市総務部人権同和政策課

同和教育啓発指導員 園山 哲 男

出雲市同和教育研究指定事業の1年次、四絡地区同和教育研究指定事業推進委員会では、人権意識調査から浮かび上がった地区の課題を踏まえ、研究推進の心臓部である幹事会で熱い協議を重ねつつ、さまざまな形で教育・啓発活動を推進してこられました。熱意ある諸活動の中でも特に「各種研修会の積極的な開催」「多文化共生推進の取組」「学校教育部の取組」には印象深いものがありました。

まず、各種研修会の開催については、次のような工夫がなされました。

- ①人口が非常に多いという地区の実態から、大きな町単位での住民研修会を開催されたこと
- ②同和問題をはじめとしたさまざまな人権問題についてステップアップしながら学ぶことができるよう、住民研修の内容を基礎編・応用編・発展編の3段階とされたこと
- ③PTAや消防団、あるいはスポ少保護者等、研修の機会が少ない若い年齢層の方や自治会未加入の方を対象とした研修会を開催されたこと
- ④同和問題についての深い学びをねらいとした視察研修（石見銀山、渋染一揆資料館）を実施されたこと

これらの工夫は、四絡地区の実態に即した有効な手法であったと高く評価するところです。

次に、四絡地区にとって大きな課題である多



文化共生のまちづくりに向けて、まずは幼児とその保護者を対象とした「四絡多文化ひろば」を意欲的に繰り返し開催されました。この取組は、出雲市全体の多文化共生推進のモデルとなる素晴らしいものであります。

最後に、学校教育部では、地域とのつながりを大切に、「認めあい 支えあう なかまづくり」を部の共通テーマとされました。そして、地域・家庭との連携・啓発活動に積極的に取り組まれ、その成果があがりつつあります。特に、保育・授業公開には、たくさんの地域の方々や保護者のご参加があり、人権・同和問題について子どもたちとともに学ぶ機会を提供されたことは、四絡地区同和教育研究指定事業推進委員会のニーズに応える重要な取組となりました。

これらの素晴らしい取組により、地区の多くの方々が人権・同和教育に触れてこられました。そして、その成果が、「気づきから行動へ」という形で表れつつあります。四絡地区では、今後も、魅力的な活動テーマのもと、更に「やさしさあふれるまちづくり」を目指し、地域ぐるみで諸活動を展開されることと思います。同和教育での学びは、ご自身の人生を豊かで幸せなものにしていく大切な素敵なものです。役員の皆様はもとより四絡地区全ての皆様の更なる積極的なご参加を期待しております。

四絡地区の保育園、幼稚園、小・中学校での人権・同和教育の取組について、その一部を紹介します。

おおつか保育園

地域の方とのとんどさん

おおつか保育園では、毎年1月中旬に地域の方にお手伝いいただき、「とんどさん」を行っています。今年も地域の方、子どもたち、職員みんなで1月12日（金）午前中に行いました。風が強かったため、昨年より規模を縮小して行いましたが、大きく燃え上がる炎、竹の弾ける音など、大迫力の中、無事終えることができました。

地域の方には、杵の打ち方、藁の巻き方、綱の張り方、段取りなど全て学ぶことばかりです。おかげで、毎年「とんどさん」ができ、1年の無病息災をお祈りすることができています。素晴らしい技術をもった人々と出会い、地域の方への感謝の気持ちを持つことができました。



おやま保育園

一人ひとりの気持ちに寄り添う保育

乳幼児期の子どもたちが過ごす保育園では、毎日の保育の中で、子どもたち一人ひとりの思いを受け止め、大事にし、かけがえのない存在として認めることを大切にしています。あそびの中で子どもの「もう一回やって」に保育者が繰り返し応えることで「自分は受け止められている」と感じるきっかけになると考えます。

身近な大人に大事にされ認められた経験は、子どもが自分以外の人も大事にする気持ちを持つことにつながっていくと思います。「おはよう」のあいさつを交わしてハグをしたり、困った様子のおともだちに「どうした？」と言葉をかけたり、赤ちゃんに「ばあ」と言って笑わせたり、あそびや生活を通じて人と関わる力を育てています。



わたりはし保育園

わたりはしっこ SDGs プロジェクト
～ キャップ de ワクチン ～

毎年テーマを決めて島根県のふるまい向上の取組として行っています。昨年度からはSDGsをテーマにし、令和5年度は親子でペットボトルキャップを集めて世界の子どもたちにワクチンを届けようという取組を行いました。年長児クラスでは、世界には恵まれない子どもたちがいることや、キャップを集めてどうやってワクチンになるのかなどのお話を聞き、世界の子どもたちに目を向け、優しさを持って取り組むことができました。



四絡幼稚園

親子ウォークラリー「大好き♡よつがねウォーク」

親子で四絡地区を散策し、地域の自然、施設、人を知ったり、親子での触れ合いを深めたりする「大好き♡よつがねウォーク」を開催しました。

事前に保護者に、地域内のおすすめの場所や知りたいことなどのアンケートを取り、それを基にクイズやルートを作成しました。当日は、ルートマップを頼りに親子でウォークラリーをしながら四絡地区を巡りました。各ポイントで出題されたクイズに答えたり、ミッションを行ったりしながら、親子で会話し、楽しく散策しました。

【保護者の感想】

- ・いつもは車で通過するだけで、知っていても立ち寄り寄る機会がなく、身近でありながら素通りしてしまっていた所を訪れ、新たな発見につながる一歩となりました。特に我が家は1年前に県外から引っ越してきたばかりなので、四絡地区を歩いて回れて良かったです。
- ・普段の散歩とは違い、友達や保護者の方々、先生とお話ししながら歩くことでいつもの道も新鮮に映り、楽しむことができました。家庭での散歩やお出かけでも今回の活動を取り入れて、「四絡新発見！」をしたいと思います。
- ・親子で触れ合いのもてる内容で、他の保護者の方やクラスの友達とも触れ合える貴重な時間を過ごせました。私自身も子どもの新しい姿の発見や、四絡地区に愛着をもつことのできる良い経験となりました。



四絡小学校

だんだんデー ～友だち、家族等に感謝しよう～

四絡小学校では「思いやりなかよしこよしは世界一」を合言葉に、「あいさつと笑顔と思いやりのあふれる学校」を目指しています。

毎週水曜日を「だんだんデー」と決め、朝活動で人間関係づくりの活動である「だんだんタイム」を行っています。またそれにあわせて、友だちや家族、先生、地域の方に感謝の気持ちを伝える日として、お昼の放送で次のような内容の話をしています。

- ・学校行事や社会の出来事等で、「感謝」に関連する話をする。(担当)
- ・様々な内容のクイズを出して考える。(担当)
- ・「教師のありがとうシリーズ」を聴く。(その週の担当教員)
- ・「子どもたちのありがとう日記」を読む。(各学年の代表)

各学級で、子どもたちが連絡帳に家族に宛てた感謝のメッセージを書き、保護者に見てもらったところ、親子の絆が深まったという内容の返事が多数返ってきました。また、児童玄関前に「だんだんデー」に関する掲示を行い、感謝の気持ちと思いやりの心の大切さを伝えていきます。



【だんだんデー・だんだん→漢字で表す】

【ふわふわ言葉と感謝の気持ち】



第三中学校

授業公開・講演会

出雲市立第三中学校では、人権・同和教育目標に次の三つを掲げて取り組んでいます。

『人権感覚を高め、「個人の尊厳」を自他ともに認めることができる生徒の育成に努める』

『同和教育をはじめとする様々な人権課題の解決に向けて、主体的に行動できる生徒の育成に努める』

『学校いじめ防止基本方針のもと、いじめの未然防止と早期発見の取組に力を入れ、すべての生徒の進路保障に努める』

〈人権・同和教育に視点を当てた授業公開〉

全学級で人権・同和教育に視点を当てた学級活動の授業を公開しました。生徒も保護者も一緒に人権について考える時間となりました。

1年生「ちがいのちがい」 2年生「性の多様性」

3年生「公正な採用選考について考えよう」

特別支援学級「思いやりのあることばを使おう」

〈PTA学芸委員会主催による講演会〉

落語家の露の新治さんを招き、講演会「新ちゃんのお笑い人権講座」を開催しました。難しいと思われがちな人権の問題について、ユーモアを交えてお話しいただき、全校生徒と保護者、地域の皆さんに聴いてもらいました。「宝の子」と言われた生徒たちは、自分たちの存在意義を改めて感じたことと思います。

